



感染症対策・調査センター

だより



2023(令和5)年5月1日 No.4

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585
名古屋市守山区桜坂四丁目207番地
電話 737-3712 FAX 736-1102

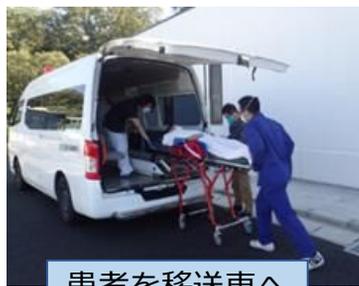
Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



感染症対策・調査センター 業務紹介

感染症患者の移送・移送車両の消毒

感染症患者を病院に運ぶことを移送といい、移送のために使用する車を移送車といいます。移送後に車両内を消毒用エタノール等で清拭します。感染症の種類に応じて個人防護具を着用します。



患者を移送車へ



移送後の消毒



防護具



検体輸送箱

検体搬送

HIV抗体検査検体、結核菌分子疫学検査検体等の搬送を行っています。

衛生害虫等の調査

蚊・スズメバチ・マダニの生息状況調査を行い、その結果を踏まえて発表を行ったり防除方法等の啓発活動を行っています。



1



2



3

衛生害虫と感染症の出張講座

人に害を及ぼす可能性のある衛生害虫や身近な感染症等についての対策や予防法等の普及啓発を行います。



リニューアル!

～調査方法～

- ①人囿法：吸血のため人に寄ってくる蚊を捕虫網で捕獲します
- ②誘引トラップ法：スズメバチの花の蜜に集まる性質を利用します
- ③旗ずり法：吸血しようとしているマダニが動物と間違えて布に飛びついたところを捕獲します



マダニ媒介感染症



マダニは屋内のダニとは異なり、野山や森林等の屋外に生息していて、近づいてきた動物やヒトに咬みつки、吸血します。ヒトが吸血された時に病原体に感染することがあり、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などを発症することがあります。野山などで活動した後に発疹がでたり発熱したりした場合は、医師に野外活動をしたことを伝えてください。日本紅斑熱はヤマアラシチマダニやキチマダニなどが、SFTSはフタトゲチマダニやタカサゴキラマダニなどが病原体を媒介します。日本紅斑熱にはテトラサイクリン系抗菌薬による治療法がありますが、SFTSは対症療法が中心です。



感染症を媒介するマダニ



フタトゲチマダニ



タカサゴキラマダニ



顎体部(拡大)

マダニは蚊と違い、いったんヒトにとりついてから数日かけて吸血します。フタトゲチマダニの成虫の大きさは約3mmですが、吸血すると約10mmまで大きくなります。タカサゴキラマダニの成虫だと、吸血前の約5mmから約25mmまでも大きくなります。吸血する時は、顎体部の中央にある口下片を皮膚の下に差し入れます。口下片にはノコギリのようにギザギザした歯列があり、皮下へ差し込みやすくなっています。ただし、マダニに咬まれても、痛みやかゆみを自覚することは少なく、吸血してマダニ自体が大きくなってから気づくことが多いです。



マダニ媒介感染症の予防方法



予防法は、マダニに吸血されないことです。野山に行く際は、長袖・長ズボンや足を完全に覆う靴を着て、肌の露出を最小限にしてください。虫よけスプレーも効果があるものがあります。野山で活動した後はできる限り着替をして、可能ならば入浴しましょう。それでもマダニがついてしまったら、無理に自分でとらずに医療機関で処置をしてもらい、数週間は発熱等の症状がでないか様子を見てください。

『感染症対策・調査センターだより』はインターネットでもご覧いただけます。名古屋市公式ウェブサイト<http://www.city.nagoya.jp/> から感染症対策・調査センターで検索してください。